



じょうようのふくし

# 社協だより

共同募金配分金で作成しています

発行 社会福祉法人 城陽市社会福祉協議会  
城陽市寺田東ノ口17 福祉センター1階

TEL 0774(56)0909  
FAX 0774(56)2800  
<http://www.kyoshakyo.or.jp/joyo/>

平成28年夏発行  
第116号

4月14日の前震と4月16日の本震から続く

一連の地震で、熊本県は多大な被害を受けました。

地震後、本会には「義援金を寄付したい」

「義援金箱を置きたい」「ボランティアに行きたい」

など、地域の方からの問い合わせが何件もあり、

義援金箱を設置するとすぐに、義援金箱は

みなさまからの善意で溢れました。

城陽市社協では熊本地震に対する支援の取組みとして、

4月18日から義援金の募集をしています。

(詳しくは中のページをご覧ください)

また、京都府社協・京都府市町村社協連合会の要請により、

5月8日～13日までの6日間、

支援活動のため熊本県に職員派遣を行いました。

ボランティアに行く、義援金に協力する、

熊本産のものを買うなど、様々な方法で

熊本を元気づけることができます。

城陽から被災地の方々を元気づけましょう！



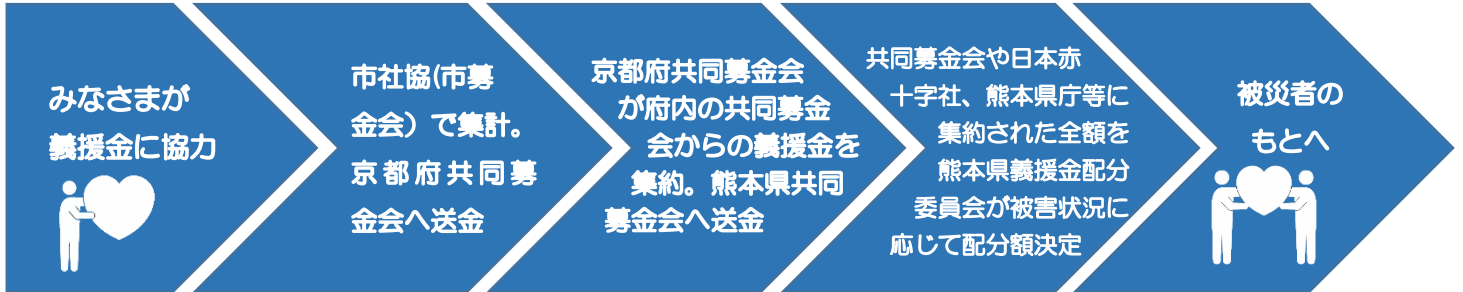
# 熊本地震への義援金について



共同募金会とともに義援金の受付窓口を開設し、市内の公共施設に募金箱を設置し、広く市民の方々に呼びかけています。

また、協力の申し出のあった商店等にも義援金箱を貸出し、設置しています。

## 【熊本地震の義援金の流れ】



FOR KUMAMOTO PROJECT

平成 28 年 4 月 16 日～5 月 26 日現在の  
「平成 28 年熊本地震義援金」の状況

**義援金合計額: 1,365,479 円**

- ・市社協窓口受付分: 1,146,045 円  
39 件(個人: 29 件 団体: 10 件)
- ・市内公共施設等設置募金箱分: 219,434 円

ご寄付いただいた義援金は、京都府共同募金会が取りまとめ、熊本県共同募金会に届けられました。

たくさんのご協力ありがとうございました。



## 義援金募金箱設置 公共施設 (5 月 20 日現在)

- ・市社協
- ・市役所
- ・各老人福祉センター (4 カ所)
- ・上下水道部
- ・教育委員会事務局 (寺田分庁舎)
- ・各コミュニティセンター (6 カ所)
- ・ぱれっと JOYO
- ・文化パルク城陽、総合運動公園 (10 カ所)

設置は 6 月 30 日までを予定しています。  
ご協力をお願いします。

※領収書が必要な方は、義援金箱に入れず  
市社協 (福祉センター) 窓口までお持ち  
くださいますようお願いいたします。

## 義援金と支援金の違い

同じようで違いがあります。使い道などの違いを理解することで善意が活かされます。

### 義援金とは?

被災した県が設置した義援金配分委員会によって寄付金すべてが見舞金や慶弔金等として公平に被災者に配分されます。



寄付者



被災者

- ・被災地での救命・復旧活動には使われません。
- ・被災者への直接的な金銭支援となります。

### 支援金とは?

使い道は支援団体が決めるため、団体ごとに使い道は異なります。お金ではなく、支援活動に活用されます。



寄付者



支援団体



被災者

- ・被災地での救命・復旧活動に使われます。
- ・支援団体の活動を支援することになります。

### 寄付金とは?

使い道等の定義は特にありません。義援金や支援金として活用されます。



寄付者



支援団体



被災者

- ・支援金として使われるのか、義援金として使われるのかは、寄付団体によって異なります。



# 熊本地震への職員派遣の報告

本会では、5月8日～13日に熊本県に職員派遣をし、現地の熊本県社協やその他市町村社協と協力し、被災地支援を行いました。

以下、現地で活動した職員からの報告です。

FOR KUMAMOTO PROJECT



益城町の避難所にある相談コーナー



益城町の様子

私は、京都府社協および京都府市町村社協連合会からの要請で、5月8日から13日までの6日間熊本県益城町へ被災地支援に派遣されました。

本震から1ヶ月弱が経っていましたが、現地での余震はまだまだ続いていました。私が支援を行っていた際にも最大で震度4の余震があり、夜は恐怖心でなかなか寝付けませんでした。

今回の派遣は災害ボランティアセンターの支援ではなく、熊本県社協が実施主体で行っている、避難生活や被災したために生活費が苦しくなった方たちに生活費を貸し付ける業務でした。生活費を借りに来られた方からお話を伺うと、避難所生活でのストレスやこれからの住まい・生活についての不安など、様々な悩みを抱えられていました。また、余震が続いているため家の整理をしてもまた余震で家の中が散らかってしまうし、危険なためボランティアの方にも来てもらえない。これから余震が収まってきたらボランティアの方に来ていただきたい。とおっしゃっていました。

その一方で、災害ボランティアセンターに行く機会があり、センターの方にお話を伺うと、ゴールデンウィークにはボランティアの方はたくさん来られていたが、今では激減しているため被災者のニーズに対するボランティアの人数は圧倒的に足りず、支援が全く行き届いていないとおっしゃっていました。

今後も復興に対する息の長い支援が必要だと感じました。

本会では城陽市と協定を締結し、平成27年度に常設型災害ボランティアセンターを設置しました。推進協議会(8団体)とともに、万が一の時にも、しっかりと城陽市民を支えられる仕組みづくりをしていきたいと再度強く考えさせられました。

## 災害ボランティアに行く前に

災害発生後の被災地では家屋倒壊による交通規制、亀裂・断層、多くの方が個別に被災地に駆けつけることなどで、渋滞や混乱が生じ緊急車両や災害復旧作業の妨げになることが考えられます。また、現地での宿泊場所や食料・生活用品等の確保も困難となります。さらに、天候によりボランティアの安全を第一に考え、活動時間の変更や中断も起こりえます。

こうした状況をふまえ、以下の3つの事前準備をしましょう。

### ①お住いの地域で必要なものを購入してください。

現地で用意される物資は被災者のための物がほとんどです。右の絵を参考に必要なものは各自で購入してから被災地へ向かってください。

### ②宿泊場所、移動手段を事前に確保してください。

被災地のボランティアセンターでは、食事・宿泊場所は用意されません。また、被災者や災害復旧業者の方が優先的に宿泊できるように、被災地から少し離れた場所に宿泊することをお勧めします。

### ③お住いの社協でボランティア保険に加入してください。

ボランティア活動中に怪我や二次災害に巻き込まれる可能性もあるため、必ず天災タイプの保険へ加入してください。お住いの地域にある社協で事前に加入しておけば、被災地までの移動における事故も補償の対象になります。



参考: <http://lifeoreat.com/archives/272.html>

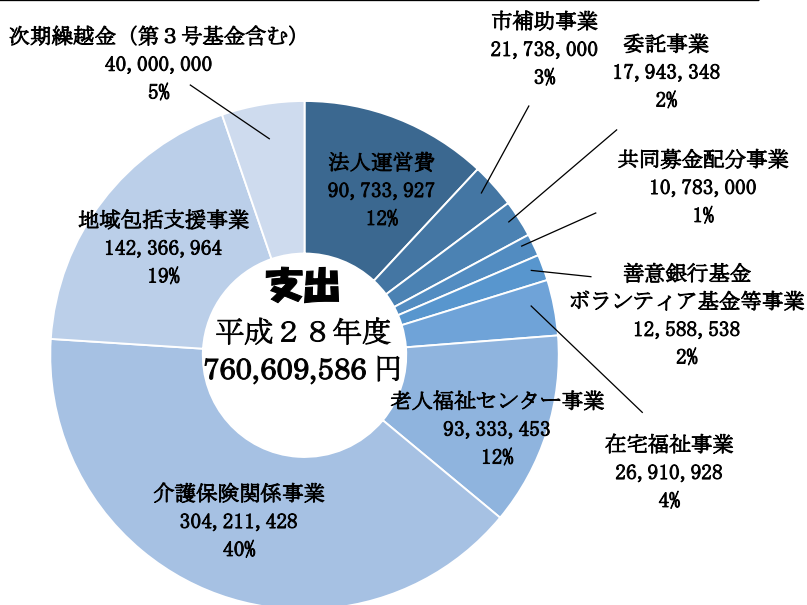
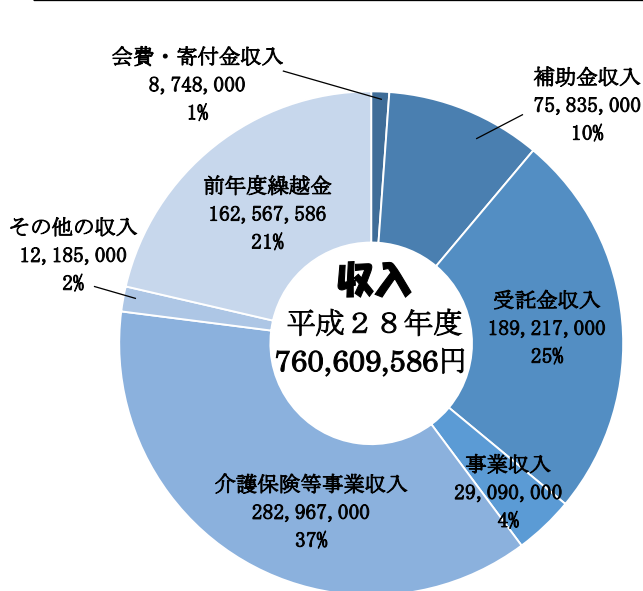
# 平成 28 年度事業計画・平成 27 年度事業報告 (要約)

—あの人の幸せを 私の幸せに—

平成 28 年度事業計画	重点目標	平成 27 年度事業報告
<ul style="list-style-type: none"><li>各校区社協の活性化を図るため、支援を通じて拠点の設置を進めます。</li><li>住民団体・関係機関とともに、より細かい校区別活動計画の策定に向け、地域実態の把握を進めます。</li><li>孤立防止と災害等緊急時の支援のために、平常時における見守りやつながりあいを強化するため、見守り活動を推進する団体への助成と定期的活動の拡充に努めます。</li><li>ふれあいサロン等交流事業において、認知症予防の取り組みを織り交ぜられるよう人材育成に取り組みます。</li></ul>	<h2>つながる</h2> <p>身近な地域のつながりを強めるネットワークづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>校区社協の活性化を図るため、必要な支援を行いました。また、校区社協の拠点に継続的な財政支援を行いました。</li><li>高齢者見守り活動の助成支援をしました。</li><li>地域包括支援センターにおいて地域ケア会議を全圏域・全校区で開催しました。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>サロン活動等福祉活動の場所へ専門職が出向き、連携して相談支援活動の充実に努めます。</li><li>当事者の立場に沿った活動や支援の形を考える機会として、情報交換のための懇談会等を実施します。</li></ul>	<h2>あつまる</h2> <p>安心して気軽に集まれる地域の居場所づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>サロン活動等の気軽に集まれる場所づくりを推進しました。</li><li>専門職がサロン等に出向き、住民ニーズの把握を行いました。</li><li>他市町村の小地域福祉活動等を学ぶ研修をしました。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>生活困窮者支援について、生活福祉資金等の諸事業の課題整理や行政との連携に努めます。</li><li>利用者の細かなニーズに対応できるよう、介護保険事業及び居宅介護事業の質的向上を図り、効率的な運営を行います。</li><li>健康や教養等の各種講座の企画、介護予防の新たな取り組みに向けて検討します。</li><li>地域ぐるみで支え見守りあえる地域づくりを目指す協議の場を設置します。</li><li>生活支援コーディネーターを新たに配置し、要支援者の方々への支援ができるよう、住民及び各種団体・事業者と協議しながら、社会資源の発掘・開発を進めます。</li></ul>	<h2>ささえる</h2> <p>暮らしの基盤を地域と支える仕組みづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>生活福祉資金貸付事業では、厳正かつ適正な貸付基準の運用と相談援助を行いました。</li><li>介護保険事業の居宅介護支援事業は前年度と比較し、利用者増となりましたが、訪問介護事業および通所介護事業は利用者減となり、経営的にも厳しい状況でした。</li><li>「高齢者・障がい者にやさしいお店・サービス」の情報更新、参加している企業やお店等を対象に、日常生活支援総合事業について学ぶ研修会を開催しました。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>ボランティア活動の啓発・促進のため、講座やイベントを開催し、ボランティア活動が市民にとって身近になるよう取り組みます。</li><li>在宅介護支援センター等の協力を得て、相談窓口の充実や課題の把握に努めるとともに、地域包括ケアシステムの構築に向けた機能と体制を拡充します。また、地域ケア会議の実施方法を見直し、医療との連携や地域におけるネットワークの構築による問題解決能力を高めます。</li><li>ニーズが増加・複雑化している福祉サービス利用援助事業において、生活支援員の増強・研修の充実に努めます。</li></ul>	<h2>かなえる</h2> <p>一人ひとりの思いを叶えるなかまづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>ボランティア活動への財政支援や新規ボランティア活動参加者獲得のために講座やイベントを実施しました。</li><li>福祉サービス利用援助事業は年々利用者が増加しており、引き続き職員体制を強化し対応しました。</li><li>地域包括支援センターでは、高齢者の総合相談や地域包括ケアシステムの構築に向けて「医療連携事業」や「地域ネットワーク事業」に取り組みました。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>帰属意識の高い、連携の図れる職員の人材育成に努めます。</li><li>様々な情報を社協だよりやホームページ等の活用により、情報公開及び発信を進めます。</li><li>災害ボランティアセンター運営等に関する協定に基づき、推進協議会と機材整備、訓練・研修の実施等を進め、実践的運営に努めます。</li><li>公益性の高い社会福祉法人運営を常に意識し、基準に準拠した会計処理を徹底し、法人の公正かつ安定した運営を図ります。</li></ul>	<h2>たよれる</h2> <p>いつも頼りにされる組織づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>職員研修の参加や実施により、職員の資質向上に努めました。</li><li>常設の災害ボランティアセンターを設置し、平常時運営を協働で行う推進協議会も発足しました。</li><li>全国および海外で発生する災害に対し、共同募金・日本赤十字社などを通じて義援金の呼びかけや受付を行いました。</li></ul>

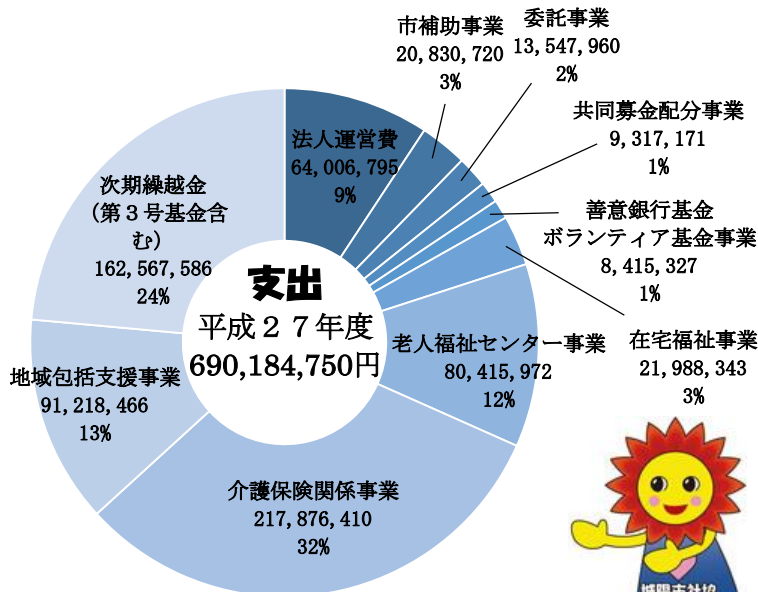
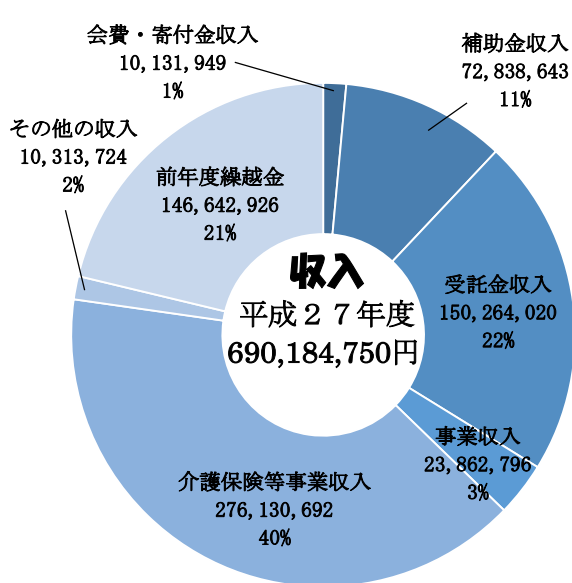
# 平成 28 年度城陽市社会福祉協議会 予算

(単位：円)



# 平成 27 年度城陽市社会福祉協議会 決算

(単位：円)



# 平成 27 年度 城陽市社会福祉協議会 会員数報告

	久津川	古川	久世	深谷	寺田	寺田南	寺田西	今池	富野	青谷	合計
普通会員	1,716	1,134	1,696	1,392	1,066	1,085	2,152	1,612	1,551	940	14,344
賛助会員	8	40	119	409	32	16	30	24	33	5	716
特別会員	0	0	3	2	1	0	1	1	1	0	9
会員合計	1,724	1,174	1,818	1,803	1,099	1,101	2,183	1,637	1,585	945	15,069

\*普通会員：1口500円 賛助会員：1口1,000円 特別会員：1口5,000円 (単位：口数 ※施設会費除く)

	久津川	古川	久世	深谷	寺田	寺田南	寺田西	今池	富野	青谷	合計
寄付金	26,960	40,650	16,600	4,301	22,200	23,920	34,660	31,155	42,020	51,070	293,536

\*500円未満の篤志については、寄付金とさせていただきます。

(単位：円)

\*総額：8,226,536円

\*城陽市社会福祉協議会にご入会いただき、ありがとうございました。また、会員募集にあたり各校区社会福祉協議会・自治会関係者の方々にご協力をいただき、ありがとうございました。



# サマースクールのボランティアを



## 大募集しています！

サマースクールは昭和53年から「障がいのある子どもたちに実りある休みを・・・」との思いで始まり、長期休暇である夏休みを存分に楽しんでもらえるよう、様々な活動を行ってきました。今年はプールや夏祭り、そうめんや工作などを企画しています。サマースクールが毎年開催でき、子どもたちの笑顔が見られるのも、ボランティアの方たちの協力があるからです。半日や1日だけの参加も大歓迎です。子どもが好き、ボランティアに興味があるという方、子どもたちの楽しい休暇を作るお手伝いをしてみませんか。少しでも関心のある方は、市社協（TEL：56-0909）までご連絡をお待ちしています。気軽に相談・申し込みしてください。（↓昨年のサマースクールの様子）



日にち	内容	場所
7月 9日(土)	ボランティア説明会	福祉センター
7月 23日(土)	開校式	福祉センター
7月 25日(月)	プール	今池小学校
8月 1日(月)	プール	青谷小学校
8月 4日(木)	夏祭り	南部コミセン
8月 5日(金)	プール	宇治支援学校
8月 17日(水)	そうめん・工作	南部コミセン
8月 19日(金)	講習会・あそび	福祉センター
8月 23日(火)	閉校式	福祉センター

※9月に反省会を予定しています。

## 平成28年度もご協力をお願いします

### 社会福祉協議会会費



城陽市社協マスコット  
キャラクター  
陽太くん

拠出額の70%を市社協事務局の運営経費に、30%を校区社協の運営や事業費に活用しています。

### 日本赤十字社(日赤)社資



日赤マスコット  
キャラクター  
ハートちゃん

日本赤十字社が行う活動に拠出額の80%が活用され、20%は城陽市地区へ還元され、その内の10%は自治会へ、5%は校区社協へ、残り5%は市内の日赤奉仕団の活動や募集事務費に活用されます。

## 本会へのご寄付ありがとうございました！

城陽市社会福祉協議会が行う事業のためにご寄付をいただいた方・団体を紹介します。

(平成28年3月1日～平成28年5月31日現在)【敬称略】

- |               |     |         |
|---------------|-----|---------|
| ○ 徳尾 榮一       | 寄付金 | 50,000円 |
| ○ 近畿労働金庫 宇治支店 | 寄付金 | 50,000円 |

ご寄付は、本会の善意銀行等に積み立て、城陽市で行う地域福祉やボランティア活動の推進に活用させていただきます。

今後とも、ご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

